

官報

號外 昭和十一年五月二十三日

○第六十九回貴族院議事速記錄第十二號

帝國議會

昭和十一年五月二十二日(金曜日)午前十時
十六分開議

議事日程 第十二號

昭和十一年五月二十二日

午前十時開議

第一 關稅定率法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
第二 大正十三年法律第二十四號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第三 昭和七年法律第四號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
第四 製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 思想犯保護觀察法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
第六 臺灣拓殖株式會社法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第七 臺灣私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
第八 昭和九年第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)

第九 昭和九年特別會計第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)

第十 昭和九年特別會計豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付)

官報號外 昭和十一年五月二十三日 貴族院議事速記錄第十二號 議長ノ報告

ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十一 昭和九年滿洲事件第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十二 自昭和十年四月昭和十年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十三 自昭和十年四月昭和十年度特別會計第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十四 自昭和十年四月昭和十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十五 昭和十一年勅令第七號(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十六 職業紹介法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 會議

第十七 昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 會議

第十八 昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 會議

第十九 昭和七年法律第一號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 會議

第二十 昭和九年法律第七號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 會議

第二十一 對支文化事業特別會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 會議

第二十二 土地賃賃價格改訂法案(政府提出、衆議院送付) 會議

第二十三 土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 會議

財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第十九 昭和七年法律第一號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第二十 昭和九年法律第七號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第二十一 對支文化事業特別會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第二十二 土地賃賃價格改訂法案(政府提出、衆議院送付)

第二十三 土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第二十四 大正九年法律第五十六號中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

議長(公爵近衛文麿君) 報告ヲ致サセマス(角倉書記官朗讀)

一昨二十日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

產鹵處理統制法案

蠶絲業組合法中改正法律案

蠶絲業法中改正法律案

同日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

競馬法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵會我 祐邦君

副委員長 男爵關 義壽君

昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案特別委員會

委員長 公爵岩倉 具榮君

副委員長 男爵松尾 義夫君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案可決報告書

昭和七年法律第一號中改正法律案可決報告書

昭和九年法律第七號中改正法律案可決報告書

對支文化事業特別會計法中改正法律案可決報告書

土地賃賃價格改訂法案特別委員會

委員長 侯爵佐佐木行忠君

副委員長 西野 元君

土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律案特別委員會

委員長 侯爵西郷 從德君

副委員長 伯爵後藤 一藏君

航路統制法案特別委員會

委員長 公爵一條 實孝君

副委員長 伯爵堀田 正恒君

重要肥料業統制法案特別委員會

委員長 公爵鷹司 信輔君

副委員長 子爵清岡 長言君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

職業紹介法中改正法律案可決報告書

重要輸出品取締法案可決報告書

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

輸出組合法中改正法律案可決報告書
昭和六年法律第四十號中改正法律案可決報告書

土地賃賃價格改訂法案可決報告書
土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律案可決報告書
請願文書表(第三回報告書)
同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
關稅定率法中改正法律案
大正十三年法律第二十四號中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
關稅定率法中改正法律案
大正十三年法律第二十四號中改正法律案

昭和七年法律第四號中改正法律案
製鐵業獎勵法中改正法律案
昭和九年第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ件
昭和九年度特別會計豫備費支出ノ件
昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

自昭和十年四月昭和十年度特別會計第二豫備金支出ノ件
自昭和十年四月昭和十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

(承諾ヲ求ムルノ件)

思想犯保護觀察法案
臺灣殖殖株式會社法案

臺灣私設鐵道補助法中改正法律案
同日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

大正九年法律第五十六號中改正法律案
同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ
大正十二年法律第五十二號中改正法律案

貯蓄銀行法中改正法律案
日本銀行特別融通及損失補償法中改正法律案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
第六十九回帝國議會農林省所管事務政府委員

農林書記官 重政 誠之君

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、昨二十一日子爵増山正興君ヨリ、都合ニ依リ土地賃賃價格改訂法案特別委員辭任ノ申出ガゴザイマシタ、之ヲ許スコトニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、其ノ補闕トシテ子爵大河内輝耕君ヲ指名致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第一、關稅定率法中改正法律案、政府提出、衆議院送附、第二讀會、中島政務次官

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノクメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

關稅定率法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月二十一日

衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公爵近衛文麿殿

關稅定率法中改正法律案 第一讀會

關稅定率法別表輸入稅表中左ノ通改正ス
第九十五號第一項ヲ左ノ如ク改ム

一 芳香性ノモノ
甲 シトロネヲ油
乙 レモンダラス油
丙 其ノ他

第一百十二號ヲ左ノ如ク改ム

一二一 礦油

一 原油(トッピングシタルモノヲ含ム)及
割溫蒸餾法ニ依リ攝氏二百七十五度ニ至ル間ニ於テ蒸餾スル液ノ原液ノ容量ニ對スル百分率
甲 二十ヲ超エサルモノ
乙 二十五ヲ超エサルモノ
丙 三十ヲ超エサルモノ
丁 三十五ヲ超エサルモノ
戊 四十ヲ超エサルモノ
己 其ノ他

但シ百分率四十五以上一ヲ増ス毎ニ一キロリットルニ付三十錢ヲ加フ
二 其ノ他(動植物性ノ油及脂、石鹼等ヲ含
有スル機械油ヲ含ム)
攝氏十五度ニ於ケル比重
甲 ○・八〇一七ヲ超エサルモノ
乙 ○・八四九八ヲ超エサルモノ
丙 其ノ他
イ 融解點攝氏十五度ヲ超エサルモノ
ロ 其ノ他

第一百十四號ヲ左ノ如ク改ム
一二四 パラフィン
一 シェール油ヨリ分餾シタルモノニシテ粗製ノモノ
二 其ノ他
甲 融解點攝氏四十五度ヲ超エサルモノ
乙 其ノ他

第一百五十八號中、及アセチールサリチール酸ヲ削リ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
一五八ノ二 アスピリン

每百斤 四一・〇〇
無 七二・〇〇
稅 〇〇

每キロリツ 六・〇五
每キロリツ 七・四〇
每キロリツ 八・八〇
每キロリツ 一〇・二五
每キロリツ 一一・七五
每キロリツ 一三・二五

每キロリツ 三三・〇〇
每キロリツ 二八・五〇
每キロリツ 四三・〇〇
每キロリツ 四・六〇

無 稅
每百斤 六・〇〇
每百斤 一二・〇〇
每百斤 一二・〇〇

第二百九號ノ二中「八二・〇〇」ヲ「二五八・〇〇」ニ改ム
第二百九號ノ三ヲ左ノ如ク改ム

二〇九ノ三 デメチルアミノアンチピリン

第二百十六號ノ二中「五八・一〇」ヲ「三一六・〇〇」ニ改ム
第二百二十號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二二〇ノ二一イオン

第四百六十二號第八項及第九項ヲ左ノ如ク改ム

八 全重量百分中炭素ノ重量〇・七五以上
ヲ含有スル帶ニシテ冷間壓延シタルモノ
九 帶(別項ニ掲ケサルモノ)
甲 冷間壓延シタルモノ
乙 其ノ他
イ 幅五十ミリメートルヲ超エサルモノ
ロ 其ノ他

第四百六十三號ヲ左ノ如ク改ム
四六三 アルミニウム及アルミニウム合金

一 塊、錠及粒
二 條、竿及板
三 線及管
四 箔
五 屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)

	從價	從價	從價	從價	從價
每百斤	一・七・七〇	二・五〇	一・七・七〇	二・五〇	一・七・七〇
每百斤	三・八・三〇	二・五〇	三・八・三〇	二・五〇	三・八・三〇
每百斤	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇	二・五〇
每百斤	一・七・七〇	一・七・七〇	一・七・七〇	一・七・七〇	一・七・七〇

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員中島彌國次君演壇ニ登ル〕

○政府委員(中島彌國次君) 只今議題トナ
リマシタ關稅定率法中改正法律案ニ付キマ
シテ御説明申上ゲマス、關稅定率法中改正
法律案デアリマスルガ、政府ト致シマシテ
ハ本改正案ニ掲ゲラレテ居リマスル各品ニ
關スル關稅改正ノ要否ニ付キ、曩ニ關稅調
査委員會ニ諮問致シマシタノデアリマシ
テ、其ノ答申ニ基キマシテ本改正案ヲ提出
致シマシタ次第デアリマス、今回ノ改正ノ
要點ハ礦油、「アルミニウム」等十一品ニ關
スルモノデアリマス、礦油ニ對スル現行關
稅ニハ、課稅品目ノ分類適切ヲ缺キ、從價
稅率ノ權衡當ヲ失セルモノガアリマスル
デ、茲ニ改正ヲ加フルノ要アリト認メラレ

タノデアリマス、即チ揮發油ノ稅率ハ大正
十五年一般改正ニ際シ、燈油ノ稅率ヨリモ
低率デアッタノヲ兩者同率ニ改メ、今日ニ及
ンデ居ルノデアリマスルガ、其ノ後燃料利
用ノ事情ガ變化致シマシテ、揮發油ト燈油
トノ兩者ニ對シテ同一ノ關稅ヲ課スルハ、
權衡ヲ得ナイト云フ實情トナリマシタノ
デ、此ノ兩者ノ關稅率ヲ區分シ、燈油ニ對
シテハ現行稅率ヲ據置キ、揮發油ニ對シテ
ハ稅率ヲ引上ゲルコトニ致シタノデアリマ
ス、同時ニ原油類ニ對シマシテモ、其ノ揮
發油分ニ付キマシテ適當ニ稅率ヲ按排シ、
又機械油等ノ稅率ヲモ改メムトスルモノデ
アリマス、次ニ「アルミニウム」ノ現行關稅
率ハ我が國ニ其ノ生産ナカリシ時代ニ制定

サレタ低率ノ儘ニナッテ居ルノデアリマス
ルガ、最近我が國ニモ其ノ生産ヲ見ルニ至
リマシタノデ、我が産業上及國防上重要ナ
ル本工業ハ、之ヲ保護スルノ必要ヲ認メマ
シテ、之ガ稅率ヲ引上ゲルコトニ致シマシ
タノデアリマス、其ノ外帶鐵、藥品等ニ付
キマシテモ、其ノ生産、輸入及需給等ノ情
況ニ鑑ミマシテ、其ノ關稅率ヲ改正スルノ
必要アリト認メタノデアリマス、次ニ大正
十三年法律第二十四號、即チ贅澤品等ノ輸
入稅ニ關スル法律中改正法律案デアリマス
ルガ、是ハ主トシテ只今御説明申上ゲマシ
タ關稅改正ニ伴ヒ……

○議長(公爵近衛文麿君) 中島君ニ御注意
致シマスガ、ソレハ日程第二デゴザイマス
カラ、マダソコマデ入ッテ居リマセヌ

○政府委員(中島彌國次君) サウデゴザイ
マスカ

○議長(公爵近衛文麿君) 關稅定率法中改
正法律案ダケデアリマス

○政府委員(中島彌國次君) ……需給等ノ
情況ニ鑑ミマシテ、其ノ關稅率ヲ改正スル
要アリト認メタ次第デアリマス、何卒御審
議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ御願ヒ
致シマス

○子爵池田政時君 只今上程サレマシタ關
稅定率法中改正法律案ノ特別委員ハ、土地
賃賃價格改訂法案ノ委員ニ併託セラレムコ
トノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 贊成
○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議
ニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認
メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二、大正
十三年法律第二十四號中改正法律案、日程
第三、昭和七年法律第四號中改正法律案、
政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ
兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハ
ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認
メマス、中島政務次官

大正十三年法律第二十四號中改正法律
案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月二十一日
衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公爵近衛文麿殿

大正十三年法律第二十四號中改正法律
案
大正十三年法律第二十四號中左ノ通改正
ス
別表輸入稅表番號第九十五號ノ項ヲ左ノ
如ク改ム

九五 植物性揮發油
一 芳香性ノモノ
丙 其ノ他(大茴香油、桂
皮油、桂葉油、スビ
カ油、シダー油、流
動蘇合香、ジンジャ
グラス油、カヤブテ
油、チミアン油、ユー
カリ油、ロスマリ

官報號外 昭和十一年五月二十三日 貴族院議事速記第十二號 大正十三年法律第二十四號中改正法律案外一件 第一讀會

一六七

ン油、ベイ葉油、カ
ナシガ油、ラベンデ
ル油、セラニウム油、
バルマローザ油、プ
チグレン油、パチュ
リ油、丁子油、ア
ジワン油、ローズ
ウッド油、冬緑油及日
本藥局方所定ノ白檀
油ヲ除ク)

一二 礦油
同第百十四號ノ項ヲ左ノ如ク改ム
一一四 バラフィン
二 其ノ他

同第百二十九號ノ内ノ項中「イオノ
ン」ヲ削ル
同第百二十九號ノ項中「五 平織布」ヲ
「四 平織布」「六 其ノ他」ヲ「五 其
ノ他」ニ改ム

同第百二十九號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加
フ
二〇九ノ二 アンチピリン
二〇九ノ三 デメチルアミノアンチピリン
二一六ノ二 炭酸グアヤコール
同第百二十號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加
フ
二二〇ノ二 イオノン
同第百六十二號ノ項ヲ左ノ如ク改ム
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號ハ輸入税ノ從量税
率ニ關スル法律ナリ
〔政府委員中島彌國次君演壇ニ登ル〕
〔政府委員(中島彌國次君) 次ニ大正十三
年法律第二十四號、即チ贅澤品等ノ輸入税
ニ關スル法律中改正法律案デアリマスルガ、
是ハ主トシテ只今御説明申上ゲマシタ關稅
改正ニ伴ヒ、項目ノ記載方ヲ改メル必要ヲ
生ジマシタガ爲メ、整理的ニ改正ヲ行ハム
トスルモノデアリマス、又昭和七年法律第
四號、即チ輸入税ノ從量税率ニ關スル法律
中改正法律案ハ、今回改正セラルベキ從量
税品ハ其ノ物品ノ生産、輸入及需給ノ關係
等、諸般ノ情況ヲ勘案致シマシテ、其ノ稅
率ヲ定メタモノデアリマスカラ、自然此ノ
法律ノ別表ニ掲ゲラレ、三割五分増課ノ範
圍カラ除外サレテ居リマスル諸品ト同様ニ
扱フベキモノト認メマシテ、前例通り是等
物品ノ品名ヲ本法ノ別表ニ追加セムトスル
モノデアリマス、尙詳細ナル點ニ關シマシ
テハ、適當ナル機會ニ於キマシテ御説明致
シタイト考ヘマス、何卒御審議ノ上、速カ
ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス
○議長(公爵近衛文麿君) 別ニ御質疑ガナ
ケレバ、兩案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サ
セマス

男爵加藤 成之君 加藤政之助君
小久保喜七君 板谷 宮吉君
佐々木八十八君

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六三 アルミニウム及アルミニウ
ム合金
一 塊、錠及粒
二 條、竿及板
四 箔
五 屑及故(改造用ノミ
ニ適スルモノ)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第四、製鐵
業獎勵法中改正法律案、政府提出、衆議院
送付、第一讀會、小川商工大臣
製鐵業獎勵法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月二十一日
衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長公爵近衛文麿殿

大正十三年法律第二十四號ハ贅澤品等
ノ輸入税ニ關スル法律ナリ
昭和七年法律第四號中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月二十一日
衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長公爵近衛文麿殿

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第五十五號ノ項ノ次ニ
左ノ二項ヲ加フ

同第百六十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼
ヲ除ク)

〔角倉書記官朗讀〕
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
外一件特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵秋元 春朝君
子爵松平 乘統君 宮尾 舜治君

製鐵業獎勵法中改正法律案
製鐵業獎勵法中左ノ通改正ス
第二條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改メ同條ニ左
ノ二項ヲ加フ
前二項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ
純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個
人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年
百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額
ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル
所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ
適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營
業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ
ズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム
第六條中「營業税、營業收益税及所得税」
ヲ「所得税及營業收益税」ニ改ム
第七條中「本法ニ依リ營業税、營業收益税
及所得税ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ
對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル」

ヲ「本法ニ依リ（第二條第三項但書ノ場合ヲ含ム）所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第二條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得稅及營業收益稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スル」ニ改ム

附則第三項但書中「營業稅及」ヲ削リ第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
第二條第三項及第七條ノ規定ハ第三項ノ製鐵事業ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條第三項及第七條ノ改正規定ハ法人ニ付テハ本法施行ノ日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年法律第十二號第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 前條ノ規定ニ該當スル製造業ガ製鐵業獎勵法ニ定ムル能力ヲ有スル設備ヲ以テ營業製鐵事業ナルトキハ之ヲ所得稅法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵業獎勵法第二條第三項ノ金額ヲ計算ス

（國務大臣小川郷太郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（小川郷太郎君） 只今議題ト相成リマシタル製鐵業獎勵法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、製鐵業ハ産業上並ニ國防上重大ナル關係ヲ有シテ居リマスノデ、從來政府ニ於キマシテハ各種ノ施設ヲ行ツテ、斯業ノ振興確立ニ努メツ、アルノデアリマシテ、是ガ一方策トシテ鑛鐵業獎勵法ヲ制定シ、主務官廳ノ認可ヲ受ケ、一定ノ設備ヲ新設又ハ増設致シマシタル製鐵事業者ニハ、其ノ事業收益ニ對シ

マシテ所得稅、營業收益稅等ノ諸稅免除ノ制度ヲ設ケタノデアリマス、爾來民間當業者ノ苦心經營ト、政府ノ保護助長政策ト相俟ツテ、本邦製鐵事業ハ漸次健全ナル發達ヲ爲シテ來タノデアリマス、殊ニ最近兩三年ノ好況ニ依リマシテ、其ノ事業内容ハ著シク改善セラレテ、斯業ノ基礎ハ漸次鞏固トナリツ、アリマシテ、諸稅全免ノ現在制度ノ創始セラレマシタル當時トハ、著シク事情ヲ異ニシテ參ツタノデアリマス、從テ製鐵事業者ガ多額ノ收益ヲ擧ゲツ、アル場合ニ於テモ、尙且之ニ全然免稅ヲ受ケシムルコトハ、斯業ニ對シマシテ適當ナル保護ニ墮シ、同法制定ノ本旨ニ鑑ミマシテ不適當ナルモノト認メラレルノデアリマス、仍テ製鐵業獎勵法中一部ノ改正ヲ行ヒ、製鐵事業ノ收益ガ資本金ニ對シテ年一割ノ割合ヲ超エル場合ニ於キマシテハ、其ノ超過利益ニ對シマシテ所得稅、營業收益稅及其ノ附加稅ヲ賦課シ、以テ從來ノ保護ニ或程度ノ制限ヲ設クルコトヲ適當ト認メタノデアリマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ切望致シマス

○議長（公府近衛文麿君） 質疑ノ通告ガゴザイマスカラ之ヲ許シマス、水野甚次郎君

（水野甚次郎君演壇ニ登ル）

○水野甚次郎君 小川商工大臣ハ國防ノ充實化ヲ強調セラレ、從來ノ大臣ガ容易ニ認可ヲ與ヘザリシ鑛爐建設ヲドシ／＼認可セラレマシタ、私ハ國家ノ爲メ誠ニ結構ナコトト存ジマス、然ルニ一面本法案ノ提出ハ、幸ヒ與ヘラレタル鑛爐建設ヲ滯セシメ、鑛鐵自給ノ大國策ヲ挫折セシメ、以テ國防充實化ノ強調ノ目的ト相反スル結果トナリハ致シマセスカ、アメリカノ古鐵七割、印

度ノ鉄鐵三割ヲ以テ製鐵ノ資源トシテ製鐵國策ヲ立テニナルコトニ根本ノ誤リガアリハ致シマセスカ、一朝事變發生ノ結果、米國並ニ英國ヨリ輸出禁止ヲ斷行致シマシタ場合、帝國ノ製鐵國策ハドウナルノデゴザイマセウ、斯ウ考ヘル時、本法案ノ如キハ、其ノ根本ヨリ改メザルベカラザルモノデハゴザイマス、本法案通過後幾年モナクシテ、再び之ヲ改訂スルガ如キコトガ生ジマシタナラバ、所謂朝令暮改ノ謗リヲ免レルコトハ出來マセズデゴザイマセウ、商工大臣、海陸軍大臣ノ御意見ヲ伺ヒマス、終リニ臨ンデ、私ハ念ノ爲ニ申上ゲテ置キマスガ、儲ケノ良イ會社カラ稅ヲ徵收スル政府ノ方針ニ反對スル者デハゴザイマセス

ヤウニ、製鐵業ガ一割以上ノ利益ヲ擧ゲテ居ルモノニ對シテ、其ノ一割以上ノ超過利益ニ對シテノミ免稅ノ特典ヲ除ク、ソレニハ課稅ヲスル、斯ウ云フノデアリマシテ、ソレガ爲ニ製鐵事業ガ頓挫スルトハ考ヘナイノデアリマス、製鐵事業モ、一般ノ事業ト同ジヤウニ、課稅ニ付テハ之ヲ特別ニ扱フベキモノデハナイガ、併シ其ノ事業ノ十分發達シテ居ナイモノハ、今日ノ獎勵法ガ之ヲ免稅スルトシテアルノデアリマス、併シ一割以上ノ利益ヲ擧ゲルモノニ迄、此ノ特典ヲ何時迄モ及ボシテ居ルト云フコトハ當ヲ缺ク、今日ハ社會思想カラ申シマシテモ、非常ニ儲ケテ居ルモノニハ相當ノ國家ノ負擔ヲ分ツテ行クト云フ、サウ云フ社會正義ノ要求ガアルト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ立場カラ致シマシテ、製鐵事業モ一割以上ノヤウナ法外ノ儲ケノアルモノニハ、之ヲ課稅スルト云フコトニシタノデアリマス、デ何ガ法外ノ利益カト云フコトニ付テハ勿論議論モアリマセウガ、日本ノ現行法ニ於キマシテハ、所得稅法ニ於キマシテモ、一割以上ヲ儲ケタモノニハ超過所得稅ヲ課シテ居ルノデアリマス、サウ云フヤウナ精神カラ申シマスナラバ、此ノ製鐵事業モ一割以上ノ利益スルモノニ對シテ、其ノ超過額ノミニ課稅スルト云フコトハ、必ズシモ不當デハナイト考ヘルノデアリマス、斯ウ致シマシテモ製鐵事業ノ今後ノ計畫ガ挫折スルモノトハ考ヘマセス、現ニ日本製鐵會社等ハ此ノ改正法ノ適用ヲ受ケマシテモ、事業ノ計畫モ相當ニヤツテ行クト云フコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、製鐵國策ガ之ガ爲ニ變テ來ルト云フコトハ斷ジテナイト考ヘマス

（國務大臣小川郷太郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（小川郷太郎君） 只今ノ御質問ニ御答ヘ申上ゲマス、政府ハ鐵鋼國策ヲ重大視シテ居リマス、デ其ノ目標ハ、其ノ自給自足ト云フコトニ在ルノデアリマシテ、或ハ更ニ進ンデ鐵製品ヲ外國ニ輸出スルコトヲモ考ヘナケレバナラヌカト迄考ヘテ居ルノデアリマス、ソレニ付キマシテハ、今商工省ハ、關係省ト協議會モ開イテ居リマシテ、或ハ從前ノ製鐵政策ニ付テハ、更ニ一步ヲ進メテ、色々ノ方法ヲ講ズル必要ガアルカトモ協議ラシテ居リヤウナ次第デアリマス、デ今議題トナツテ居リマス製鐵業獎勵法中改正法律案ヲ出シマシタカラト云ツテ、其ノ方針ニ何等違ツタ點ハナイノデアリマス、只今ノ御質問ハ、其ノ大方針ニ矛盾シテ居ルデハナイカト云フヤウナ御意見ヲ以テデノ御尋デアッタト思ヒマスガ、サウハ考ヘナイノデアリマス、此ノ議題トナツテ居リマス法律案ハ、只今御説明申上ゲマシタ

○國務大臣(永野修身君演壇ニ登ル)

ニ非常ニ關係ガアリマスシ、特ニ海軍ト致シマシテハ非常ニ鐵ノ使用者デゴザイマス、本問題ニ關シマシテハ斯ウ云フ關係上、特ニ海軍ハ慎重ニ商工省其ノ他ト研究ヲ致シマシテ、研究ノ結果ハ今商工大臣カラ申サレマシタ通りノ結論ニ達シタノデゴザイマシテ、別ニ申上ゲルコトハアリマセヌ

○水野基次郎君 簡單デゴザイマスカラ、自席カラ宜シウゴザイマス

○議長(公爵近衛文麿君) 宜シウゴザイマス

○水野基次郎君 商工大臣ノ御答辯中、鐵ノ資源ヲ自給自足シタイ、此ノ御言葉ガアリマシタ、誠ニ結構デアリマス、サウアラネバナリマセヌ、然レドモ今日マデ自給自足デナイノデゴザイマシテ、是ハ明カナコトデゴザイマス、「アメリカ」ノ古鐵ガ少シ來ナクナルト、製鐵業者ハ非常ニ慌テマシタ、是ハ極メテ近イ過去ノ問題デアリマシテ、英國ガ「アメリカ」ノ古鐵ヲ買占メマシテ、「イタリー」ト日本ライデメル爲ニ買占ラシタト云フ噂ガ立チマシテ、製鐵業者ハ非常ニ慌テテ、澤山出來タ平爐ガ殆ド火ヲ入レラナイデ居タト云フコトハ、商工大臣御記憶デゴザイマセウ、而シテ鐵鐵ヲ「インド」カラ輸入シテ居ル、斯ウ云ツヤウナ製鐵ニ對シテ、商工大臣ハ自給自足ト云フ語ヲ御使ヒニナルノデゴザイマスガ、自給自足ト申スコトハ、日本ニ古鐵ガ有リ餘ッテ居ル場合デアツテ、即チ「アメリカ」ノ如ク古鐵ガ循環シテ居ル時ハ、自給自足ト云フ言葉ガ使ヘレマセウ、而シテ鐵鐵ガ日本ノ何處カラ出デ居リマス、此ノ芽生ニ到達シテ

居ル、之ヲ助長シナケレバナラナイ、自給自足ヲ助長シナケレバナラナイ場合ニ、此ノ法案ヲ出シテ、此ノ芽生ヲ打切ルト云フヤウナコトヲ考ヘルコトガ、果シテ製鐵國策ノ本義ニ悖リテ居リハ致シマセヌカ、此ノ點ヲ御伺スルノデアリマス

○國務大臣(小川郷太郎君演壇ニ登ル)

疑ニ御答ヘ致シマス、御質問ニモアリマシタガ、今日ニ於キマシテ鐵鐵ハ非常ニ供給不足シテ居リマス、鐵ノ製作ノ目標ガ自給自足ニアル、併シ今日ニ於テハ其ノ域ニ達シテ居リマセヌ、其ノ自給自足ノ域ニ達セシムルト云フコトガ目標デアリマスカラ、種々ノ法ヲ以テ之ヲ企圖シテ居ルノデアリマス、先刻モ申上ゲマシタヤウニ、日本製鐵會社ニ於キマシテモ之ニ應ジマシテ、此ノ製鐵計畫ヲ、事業計畫ヲ立テテ居リマス、初メ十年計畫デヤツテ居タノヲ、近頃ハ五年計畫ニマデ進メテ居リマシテ、其ノ増產ヲ企テテ居ル譯デアリマス、尙日本製鐵會社以外ノ所謂「アウトサイダー」ニモ先刻御話ノアリマシタ私ハ鑛鑛爐ヲ設ケルコトヲ許シテ居リマス、是モ皆鐵鐵ガ十分ニ供給ノ出來ルヤウニト云フ考ノ下デ、サウ云フ風ニ處置シタノデアリマス、デ現在ニ於テハ自給自足ノ域ニ達シテ居リマセヌガ、ソレヲ目標トシテ百方努メテ居ル譯デアリマス、此ノ課稅ガ今回ノ、今議題トナツテ居リマス一割以上儲ケタモノニハ、其ノ超過額ダケニカケルト云フコトガ、其ノ方策ノ頓挫トハナラス、ソレハ心配スルコトハナイト云フコトヲ申上ゲテ居ルノデアリマス

○水野基次郎君 自給自足ハ將來ノ目的デ

アル、今日ハ自給自足ニハナツテ居ナイ、斯

樣ニ仰セニナリマシタ、然ラバ自給自足ガ出來テ、本案ノ如クモットノ、高イ稅ヲ徵收セラル、ノモ結構デゴザイマス、併シナガラ今鑛爐ヲ許シテ、鑛爐ニ幾千萬圓或ハ幾ラ掛ルカ存ジマセヌガ、斯様ナ莫大ナ費用ヲ掛ケテ鑛爐ヲ造ラナケレバナラナイノニ拘ラズ、是ハ一割以上ヲ儲ケルカラ會社ガ造ルノデアラウト存ジマス、ソコデ一割以上ノモノニ對シテハ稅ヲ課スルト云フコトヲ以テ恐怖心ヲ懷カシメテ、若シ此ノ鑛爐ヲ建設スルト云フコトニ遲滞ヲ來サシメタナラバ、商工大臣ノ責任デナイカト私ハ存ズル、斯様ナコトノ爲ニ若シモ現在許サレテ造リツ、アル鑛爐ヲ、斯ウ云フ稅ヲカケラレ、斯ウ云フヤウニイデメラレルナラバ、將來儲ケラ以テ鑛爐ヲ造ラウト計畫シテ居ル者ハ、儲ケガナクナルト云フコトニナレバ、鑛爐ヲ造ルコトハ躊躇シナケレバナラヌ、此ノ觀念ノ下ニ若シ躊躇スルコトガアツタナラバ、將來商工大臣ノ大ナル責任デアルト云フコトヲ、只今ノ御答辯ニ於テ私ハ信ズル者デアリマスコトヲ申上ゲテ、私ノ質問ヲ打切りマス

○子爵池田政時君 只今上程サレマシタ製鐵業獎勵法中改正法律案ハ、重要ナル法案デアリマスガ故ニ、其ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔角倉書記官朗讀〕

製鐵業獎勵法中改正法律案特別委員

公爵島津 忠重君 侯爵中御門經恭君
伯爵樺山 愛輔君 子爵會我 祐邦君
子爵岡部 長景君 子爵大岡 忠綱君
男爵赤松 範一君 男爵渡邊 汀君
男爵園田 武彦君 田所 美治君
小坂 順造君 稻畑勝太郎君
根津嘉一郎君 上郎 清助君
磯村豐太郎君 野村茂久馬君
久恒 貞雄君 澁澤 金藏君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第五、思想犯保護觀察法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、林司法大臣

思想犯保護觀察法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月二十一日
衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公爵近衛文麿殿

思想犯保護觀察法案
思想犯保護觀察法
第一條 治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタル場合又ハ訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セザル場合ニ於テハ保護觀察審議會ノ決議ニ依リ本人ヲ保護觀察ニ付スルコトヲ得本人刑ノ執行ヲ終リ又ハ假出獄ヲ許サレタル場合亦同ジ

第二條 保護觀察ニ於テハ本人ヲ保護シテ更ニ罪ヲ犯スノ危險ヲ防止スル爲其

ノ思想及行動ヲ觀察スルモノトス

第三條 保護觀察ハ本人ヲ保護觀察所ノ保護司ノ觀察ニ付シ又ハ保護者ニ引渡シ若ハ保護團體、寺院、教會、病院其ノ他適當ナル者ニ委託シテ之ヲ爲ス

第四條 保護觀察ニ付セラレタル者ニ對シテハ居住、交友又ハ通信ノ制限其ノ他適當ナル條件ノ遵守ヲ命ズルコトヲ得

第五條 保護觀察ノ期間ハ二年トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ保護觀察審査會ノ決議ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第六條 第一條ニ定ムル事由ノ生ジタル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ニ對シ保護觀察審査會ノ決議前假ニ第三條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 第三條又ハ第四條ノ處分ハ其ノ執行中何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得前條ノ處分ニ付亦同ジ

第八條 保護觀察所ハ必要アルトキハ保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第九條 保護觀察所及保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第十條 本人ヲ保護團體、寺院、教會、病院又ハ適當ナル者ニ委託シタルトキハ委託ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リテ生ジタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第十一條 前條ノ費用ハ保護觀察所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ其ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス

ルコトヲ得此ノ命令ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ命令ニ不服アル者ハ命令ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ一月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ出訴ハ執行停止ノ效力ヲ有セズ

第十二條 少年ニシテ治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者ニハ少年法ノ保護處分ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十三條 本法ハ陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條、第九條ニ揭グル者ニハ之ヲ適用セズ

第十四條 保護觀察所及保護觀察審査會ノ組織及權限並ニ保護觀察ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ第一條ニ定ムル事由ノ生ジタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

○國務大臣(林賴三郎君) 只今上程ニ相成リマシタ思想犯保護觀察法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ說明致シマス、治安維持法違反事件ニ付キマシテハ、政府ハ昭和三年以來銳意之ガ檢舉ヲ續行致シ、流石執拗ヲ極メマシタ共產主義者ノ運動モ、漸次落潮ノ傾向ヲ迎レニ至リマシタコトハ、既ニ御承知ノ通りデアリマス、昭和三年以來治安維持法違反ノ罪ニ依テ檢舉シマシタ者ニ付テ考察シマスルノニ、其ノ中ニハ起訴猶豫ノ處分若シクハ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ、又ハ刑ノ執行ヲ終リ、若シクハ假出獄ヲ許サレタル者ガ相當多數ニ達シテ居ルノデアリマスガ、是等ノ者ノ心情ハ極メテ區區デアリマシテ、其ノ中ニハ眞ニ轉向シタ

者モアリマスガ、依然トシテ不逞思想ヲ抱懷シテ、熾烈ナル鬭爭意識ヲ表示スル者モアリ、又其ノ態度極メテ曖昧デアリマシテ、轉向ノ意思ノ存否ガ判明シナイ者モアリマシ、或ハ轉向ノ意思ヲ表明シマシテモ、其ノ志操ノ堅固ナラザル者ガアルノデアリマス、思フニ轉向セザル者ガ再ビ罪ヲ犯スノ危險アルコトハ明白デアリマスガ、爾餘ノ者ニシマシテモ此ノ儘之ヲ放置スルニ於テハ、其ノ環境又ハ社會情勢ニ左右セラレマシテ、再ビ罪ヲ果ヌルノ虞ノアル者ガ少クナイノデアリマス、然ルニ近時ニ至リマシテ、此ノ治安維持法ノ違反者ニシテ、刑期ノ滿了ニ依テ出獄スル者ガ漸次其ノ數ヲ加フルコトニ相成リ、其ノ中ニハ危險性ノ強イ者ガアリマスノデ、是等ノ者ノ出獄ガ他ノ危險性ノ弱イ釋放者及一般社會ニ及ボス影響ニ付キマシテハ、思想犯ノ特性ニ鑑ミマシテ、深ク考慮スルノ必要ガアルノデアリマス、是ト同時ニ最近ニ至リ執行猶豫期間ノ滿了スル者ノ數モ著シク増加シテ參ッテ居リマスカラ、是等ノ者ヲシテ其ノ期間ノ滿了後ニ於ケル行動ヲ誤ラシメザルヤウニ、特ニ警戒ヲ嚴ニスルノ要ガアルモノト思料致スノデアリマス、而シテ之ヲ内

外ノ諸情勢ト綜合シテ考察致シマスルト、今ニ於テ是等ノ思想犯人ニ對スル萬全ノ方策ヲ樹立シ、以テ再犯防止ノ舉ニ出ヅルコトハ、我が國ニ於テ此ノ種不逞兇惡ノ思想運動ヲ根絶致シマスル上ニ、喫緊ノ要務デアルト確信スルノデアリマス、從ッテ政府ハ是等ノ者ノ思想及行動ヲ觀察シ、非轉向者ニ對シテハ其ノ轉向ヲ促進シ、併セテ非違ヲ犯スコトナキノ途ヲ講ズルト共ニ、轉向

者ニ對シテハ轉向ヲ確保スルノ方法ヲ執リマスル爲ニ、茲ニ思想犯保護觀察法ヲ制定スルノ必要ヲ認メタ次第デアリマス、何卒慎重御審議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望致シマス

○子爵池田政時君 思想犯保護觀察法案モ亦重要法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 贊成
○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)
思想犯保護觀察法案特別委員
侯爵西郷 從德君 侯爵松平 康昌君
伯爵山田 英夫君 子爵保科 正昭君
子爵舟橋 清賢君 子爵近衛 秀麿君
佐藤 三吉君 木場 貞長君
松井 茂君 男爵井田 磐楠君
男爵奥田 剛郎君 男爵渡邊 修二君
丸山 鶴吉君 大塚 惟精君
大藪 守治君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第六、臺灣拓殖株式會社法案、日程第七、臺灣私設鐵道補助法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、永田拓務大臣

官報號外 昭和十一年五月二十三日 貴族院議事速記第十二號 臺灣拓殖株式會社法案外一件 第一讀會

一七一

臺灣拓殖株式會社法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月二十一日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(小字及ハ衆議院ノ修正)

臺灣拓殖株式會社法案

臺灣拓殖株式會社法

第一條 臺灣拓殖株式會社ハ拓殖事業ノ經營及拓殖資金ノ供給ヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ臺北ニ置ク

臺灣拓殖株式會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定期預リ金ヲ爲スコトヲ得

第二條 臺灣拓殖株式會社ノ資本ハ三千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 臺灣拓殖株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ、社員株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第四條 政府ハ臺灣總督ノ管理ニ屬スル金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ臺灣拓殖株式會社ガ政府ノ出資スル不動産ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ其ノ登録稅ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス

第五條 臺灣拓殖株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第六條 臺灣拓殖株式會社ニ社長副社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置キ其ノ職務、權限ト任命選任ノ方法及任期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

社長副社長及理事ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ經テ臺灣總督之ヲ命ズ

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

第七條 臺灣拓殖株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ限リ臺灣拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得

臺灣拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第八條 臺灣拓殖債券ノ所有者ハ臺灣拓殖株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第九條 臺灣拓殖株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利

益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第十條 政府ハ臺灣拓殖株式會社ノ業務ハ第一次ニ於テ臺灣總督之ヲ監督シ第二次ニ於テ主務大臣之ヲ監督ス

第十一條 利益金ノ處分、臺灣拓殖債券ノ發行並ニ合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ定款ノ變更其ノ他政府ノ認可ヲ受ケタル事項ノ變更ニ付亦同ジ

第十二條 政府ハ臺灣拓殖株式會社ノ決議ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ反消シ

又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第十三條 臺灣拓殖株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第十四條 臺灣拓殖株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ總株式ニ對スル利益配當ガ拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト四トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第十五條 臺灣拓殖株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ社長又ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル者ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十六條 本法ニ定ムルモノノ外臺灣拓殖株式會社ノ業務ノ監督ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

政府ハ設立委員ヲ命ジ臺灣拓殖株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

前二項ニ定ムルモノノ外臺灣拓殖株式會社ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第六條第一項第十一號中「勸業債券」ヲ下ニ「臺灣拓殖債券」ヲ加フ

臺灣私設鐵道補助法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月二十一日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

臺灣私設鐵道補助法中改正法律案

臺灣私設鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ五年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第一條ノ二 前條ノ補助金ハ左ノ各號ニ依ル金額ヲ限度トス

一 前條第一項ノ期間中ハ每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年六分ノ割合ニ相當スル金額但シ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス

二 前條第二項ノ期間中ハ每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額但シ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分五厘ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキ

ハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控
除ス

第三條中「第一條」ノ下ニ「及第一條ノ二」
ヲ加フ

第四條中「第一條」ヲ「第一條ノ二」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（國務大臣永田秀次郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（永田秀次郎君） 只今ノ議題ト

ナリマシタ臺灣拓殖株式會社法案ニ付キマ
シテ、提案ノ理由ヲ簡單ニ御説明申上ゲマ
ス、臺灣ハ御承知ノ通り始政以來四十年ヲ
經過シテ居リマスガ、其ノ開發ハ相當程度
ニ達成シテ居ルノデアリマス、併シナガラ
其ノ臺灣ノ有スル天惠ト資源トヲ考察致シ
テ見マスルト、尙今後大イニ企業經營スベ
キモノガ殘サレテ居ルヤウニ考ヘラレマ
ス、且臺灣ノ重要性ナルモノハ當ニ其ノ豐
富ナル天惠ト資源トヲ有スルニ止リマセス
デ、寧ろ臺灣ノ有スル地理的ノ地位ヲ利用
致シマシテ、將來一層南支、南洋トノ經濟
的提携ヲ緊密ニ致シマシテ、相互ノ慶福増
進ヲ圖ルト云フコトニ、其ノ眞價ガアルモ
ノデアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、仍
テ政府ハ今回臺灣ニ於ケル官有地ヲ出資致
シマシテ、半官半民ノ拓殖會社ヲ設立シ、
此ノ會社ヲシテ臺灣島内ニ於ケル未開墾地
ノ開拓トカ、又各種栽培事業其ノ他移民事
業、及是等ノ事業ニ附帶スル事業ヲ經營致
シマスルト共ニ、更ニ進ンデ南支、南洋ト
ノ經濟的提携ヲ圖ラムトシテ居ル次第デア
リマス、是等ノ理由ヲ以チマシテ本案ヲ提
出致シマシタ次第デゴザイマス、何卒御審
議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ望ミマ
ス、次ニ臺灣私設鐵道補助法中改正法律案

ノ提出ノ理由ヲ簡單ニ御説明申上ゲマス、
臺灣ニ於ケル補助私設鐵道ハ、何レモ其ノ
業績ガ餘リ豫期ノ如クニ好クハ行ッテ居リ
マセス、尙當分政府カラ相當ノ補助ヲシナ
ケレバ經費ガ困難ノ狀態ニ居リマス、而モ
是等ノ鐵道ハ、臺灣ノ開發上必要ノ鐵道デ
ゴザイマスルノデ、朝鮮ニ於ケル例ニ倣ヒ
マシテ、現在ノ補助期間十五年トアリマス
ノヲ改メマシテ、更ニ五年ヲ限り延長シ得
ルコトト致シマシテ、其ノ他必要ナ改正ヲ
加ヘタ次第デゴザイマス、此ノ案ニ付キマ
シテモ、何卒御審議ノ上、御協賛アラムコ
トヲ希望致シマス

○子爵池田政時君 只今議題ト相成リマシ
タ臺灣拓殖株式會社法案外一件ハ、是亦重
要ナル法案デアリマスルガ故ニ、其ノ特別
委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ
一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 賛成

○議長（公爵近衛文麿君） 池田子爵ノ動議
ニ御異議ゴザイマセスガ

（異議ナシ）ト呼フ者アリ

○議長（公爵近衛文麿君） 御異議ナシト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（角倉書記官朗讀）

臺灣拓殖株式會社法案特別委員外一件

公爵島津 忠承君 侯爵細川 護立君

伯爵柳原 義光君 子爵大久保 立君

子爵戸澤 正己君 子爵綾小路 護君

犬塚勝太郎君 太田 政弘君

男爵小畑太太郎君 柴田善三郎君

男爵松田 正之君 男爵杉溪 由言君

倉知 鐵吉君 遠藤 柳作君

中川小十郎君 赤池 濃君
松本 眞平君 風間八左衛門君

○議長（公爵近衛文麿君） 日程第八ヨリ日
程第十四迄、承諾ヲ求ムル件、會議、是等
ノ七件ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議
ゴザイマセスガ

（異議ナシ）ト呼フ者アリ

○議長（公爵近衛文麿君） 御異議ナシト認
メマス、中島政務次官

昭和九年度第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ
件

昭和九年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ノ
件

自昭和十年四月 昭和十年度第二豫備金
支出ノ件

自昭和十年四月 昭和十年度特別會計第
二豫備金支出ノ件

自昭和十年四月 昭和十年度特別會計豫
備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ
因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月二十一日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

（政府委員中島彌國次君演壇ニ登ル）

○政府委員（中島彌國次君） 只今議題ト相
成リマシタ昭和九年度第一豫備金支出外六
件ニ關スル事後承諾ヲ求ムル件ニ付キマシ
テ、其ノ大體ノ説明ヲ申上ゲマス、昭和九

年度第一豫備金ノ豫算金ハ六百萬圓デアリ
マスルガ、昭和九年度令第二百六十五號ニ
依リ、第一豫備金ヨリ補充致シマシタ主ナ
ル項目ハ、軍事救護費、諸拂戻及補填金、
受託造修費、刑務所收容費等デアリマシテ、
其ノ總額ハ六百萬圓デアリマス、各特別會
計ニ於キマシテモ其ノ第一豫備金又ハ豫備
費ヨリ、豫算超過ノ支出ヲ爲シタルモノ
ガアリマス、次ニ昭和九年度滿洲事件第一
豫備金支出ニ付キマシテ申上ゲマス、昭和
九年度滿洲事件第一豫備金ノ豫算額ハ一千
萬圓デアリマスルガ、昭和九年度令第二百
六十五號ニ依リマシテ、滿洲事件費ニ充當
致シマシタル金額ハ一千萬圓デアリマス、
次ニ昭和十年四月ヨリ同年十二月ニ至ル間
ニ於ケル、昭和十年度第二豫備金支出ニ付
キ申上ゲマス、昭和十年度第二豫備金ノ豫
算額ハ二千三百萬圓デアリマシテ、昭和十
年四月十七日ヨリ同年十二月十四日ニ至ル
間ニ於ケル支出總額ハ千九百二十八萬五千
六圓デアリマス、其ノ中主ナル事項ヲ舉
ゲマレバ、應急土木事業助成費、砂防工事
費補助、災害土木費補助、艦船損傷復舊費、
風水害應急及復舊施設費、冷害應急施設費
等デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、
其ノ第二豫備金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲ爲シ
マスルモノト、豫備金外ニ於テ其ノ歲計剩
餘金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノト
ガアリマス、何卒御審議ノ上、御承諾ヲ與
ヘラレムコトヲ希望スル次第デアリマス

○議長（公爵近衛文麿君） 別ニ御質疑モナ
ケレバ以上各件ハ、是ヲ大正十三年法律第
二十四號中改正法律案外一件ノ特別委員ニ
付託致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十五、昭和十一年勅令第七號、承諾ヲ求ムル件、衆議院送付、會議、委員長報告、委員長岩倉公爵

(左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

昭和十一年勅令第七號
右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月二十日

委員長 公爵岩倉 具榮

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(公爵岩倉具榮君演壇ニ登ル)

○公爵岩倉具榮君 只今議題トナリマシタ昭和十一年勅令第七號ノ承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、本件ハ昭和十年度ニ、各地ニ於テ起リマシタ災害ノ善後ニ關スル經費ノ一部ヲ公債ニ求メル爲メ、帝國憲法第七十條第一項ニ依リ行ハレマシタ財政上ノ緊急處分ノ、承諾ヲ求メルモノデゴザイマシテ、去ル二十日午後ノ委員會ニ於テ慎重審議致シマシタ、政府當局ノ説明ニ依リマシタ災害ニ對シテハ、先ヅ第二豫備金ヲ支出シテ一應ノ措置ヲ講ジマシタケレドモ、同年度内ニ於テ必要トスル其ノ餘ノ經費ニ付テハ、第六十八回帝國議會ニ追加豫算ヲ提出スル豫定デ居リマシタ所、衆議院ガ解散ヲ命ゼラレマシタ爲メ、其ノ成立ヲ見ルニ至ラナカッタト云フコトデゴザイマス、右經費ノ一部ハ其ノ後第二豫備金ノ使用殘額ヲ以テ支辨シ得マシタケレドモ、其ノ大部分ハ之ヲ支辨スルノ財源ガアリマセヌデシ

タガ、是等經費ノ中ニハ公共ノ安全ヲ保持スル爲メ、緊急ノ需要ガアリマシテ、總選舉後ニ召集セラル、帝國議會ノ開會ヲ待ツコトガ出來ナイモノガアリマシタ爲メ、政府ハ已ムヲ得ズ其ノ財源ヲ公債ニ求メルコトトシ、本年二月十二日、帝國憲法第七十條第一項ニ依リ、昭和十一年勅令第七號ヲ公布シテ、六百十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行スルノ途ヲ開キ、其ノ公債ニ依ル歳入金ヲ財源トシテ、本年二月十三日勅裁ヲ經、內務省所管ニ於テ二百三十六萬餘圓、農林省所管ニ於テ三百七十萬餘圓、合計六百七萬餘圓ノ豫算外支出ヲ致シタト云フ説明デゴザイマシタ、委員會ニ於キマシテハ、右ハ事情已ムヲ得ナカッタモノト認メマシテ、全會一致、本件ハ承諾ヲ與フベキモノト議決致シマシタ、以上御報告申上ゲマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本件ニ對シ、委員長ノ報告通り承諾ヲ與フルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十六、職業紹介法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長大隈侯爵

職業紹介法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 侯爵大隈 信常

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(侯爵大隈信常君演壇ニ登ル)

○侯爵大隈信常君 只今上程ニナリマシタ職業紹介法中改正法律案ノ趣旨ハ、第一、職業紹介所ニ關スル行政機構ノ改善デアリマシテ、現在ノ中央及地方ノ職業紹介事務局ヲ廢止致シマシテ、職業紹介所ノ事業ノ聯絡統一及監督ニ關スル事務ヲ內務大臣及地方長官ニ於テ握ラシメムトスルモノデアリマス、第一ハ現行法ニ於キマシテハ、職業紹介所ノ經營ハ、市町村主義ヲ採用シテ居リマシタノデアリマスガ、特別ノ必要アル場合ニハ、道府縣亦之ヲ設置シ得ルト云フコトニ改メタ點デアリマス、第三ハ、多數ノ勞務者ヲ雇傭セムトスル者ヲシテ、職業紹介上必要ナル事項ヲ豫メ地方長官ニ通報セシメムトスル點デアリマス、是等ノ改正ニ依リマシテ、職業紹介制度ノ擴張ヲ圖リマシテ、勞務ノ需給調節ノ機能ヲ大イナラシメマシテ、以テ職業行政ノ確立ヲ期セムトスルモノデアリマス、而シテ委員會ニ於キマシテハ種々ノ質問應答ヲ經マシテ、慎重審議ノ結果、本法案ハ大體適當ナルモノト認メマシテ賛成スルコトニ致シマシタ次第デアリマスガ、併シナガラ職業紹介業ノ根本問題ト致シマシテハ、職業紹介所ハ國營ヲ以テスルコトヲ適當デアルト云フ意見ガ委員ノ間ニ強調サレタノデアリマス、カルガ故ニ委員會ニ於キマシテハ

政府ハ速カニ職業紹介所ノ國營ニ關スル具體案ヲ樹立セラレムコトヲ望ム

斯ウ云フ希望意見ヲ付シマシテ、滿場一致、此ノ法案ヲ可決シタ次第デゴザイマス、右御報告申上ゲマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ議題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會、本案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十七、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲

公債發行ニ關スル法律案、日程第十八、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案、日程第十九、昭和七年法律第一號中改正法律案、日程第二十、昭和九年法律第七號中改正法律案、日程第二十一、對支文化事業特別會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ五案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、委員長岩倉公爵

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月二十日
委員長 公爵岩倉 具榮
貴族院議長公爵近衛文麿殿

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月二十日
委員長 公爵岩倉 具榮
貴族院議長公爵近衛文麿殿

昭和七年法律第一號中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

官報號外 昭和十一年五月二十三日 貴族院議事速記録第十二號

昭和十一年五月二十日
委員長 公爵岩倉 具榮
貴族院議長公爵近衛文麿殿

昭和九年法律第七號中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月二十日
委員長 公爵岩倉 具榮
貴族院議長公爵近衛文麿殿

對支文化事業特別會計法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月二十日
委員長 公爵岩倉 具榮
貴族院議長公爵近衛文麿殿

○公爵岩倉具榮君 只今議題トナリマシタ昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外四法律案ノ、委員會ニ於ケル審議ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、第一ハ御承知ノ歳入補填公債、即チ所謂赤字公債ノ發行ニ關スル法律案デゴザイマス、即チ昭和十一年度一般會計ノ歳入不足五億千八百八十餘萬圓ノ内、五百九十餘萬圓ハ第二回低利借換ニ依ル國債利子ノ不用額ヲ以テ充テ、殘額五億千二百九十餘萬圓ヲ此ノ歳入補填公債ノ發行ニ依リ調達セムトスルモデゴザイマス、第二ハ昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲メ、特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ、又ハ特別會計ヨリ一般會計ニ繰入金ヲ爲スコトニ關スル法律案デゴザイマシテ、政府ハ之ニ依リ、昭和十一年度ニ於キマシ

テ、通信事業其ノ他ノ特別會計ヨリ一般會計ヘ千七百五十萬圓ヲ繰替使用シ、又ハ繰入レヨウトスルモノデゴザイマシテ、既ニ追加豫算ノ歳入ニ計上シテゴザイマス、第三ハ所謂滿洲事件費公債ノ發行限度ヲ増加スル法律案デゴザイマス、即チ昭和十一年度ノ滿洲事件ニ關スル經費ハ二億二百餘萬圓デゴザイマシテ、其ノ中特別會計ノ分ハ全部普通財源ヲ以テ支辨致シマスガ、一般會計ノ分ニ付キマシテハ、滿洲國防費分擔金受入等ニ相當スル金額ヲ差引キマシタ殘額、一億七千三百八十餘萬圓ハ、之ヲ公債財源ニ依ルコトトシ、滿洲事件費公債發行限度ヲ一億七千三百九十萬圓増加シテ、九億九千四百五十萬圓ニ改正シヨウトスルモノデゴザイマス、第四ハ、滿洲事件ニ關シ功績アル陸海軍軍人其ノ他ニ一時賜金トシテ交付スル公債ノ發行ニ關スルモノデゴザイマス、即チ事件ガ延長シ、賜與人員ノ増加ヲ必要トスルニ伴ヒマシテ、交付公債ヲ更ニ増額スル必要ガゴザイマスノデ、公債ノ發行限度ヲ八百四十萬圓増額シテ、五千八百四十萬圓ニ改正シヨウトスル法律案デゴザイマス、第五ハ、對支文化事業特別會計ノ歳出額ハ御承知ノ通り、對支文化事業特別會計法第七條ニ依リマシテ、寄附金ニ依ルモノヲ除ク外、毎年度三百萬圓ヲ超過シ得ナイコトニナツテ居リマスガ、昭和十一年度以降、當分ノ内百萬圓ヲ限リ此ノ制限額ヲ超過シ得ルコトニ改正シヨウト云フ法律案デゴザイマス、委員會ハ去ル二十日午後開會致シマシテ、以上ノ五ツノ法律案ニ關シテ、政府當局トノ間ニ質問應答ヲ重ネ、慎重審議致シマシタ、其ノ詳細ハ議事録ニ就イテ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、

委員會ニ於ケル質問應答ノ中、特ニ重要ナ一二ニ付テ其ノ要旨ヲ申上ゲマスレバ、所謂赤字公債ノ既ニ發行シタ額ハ何程ニ上ボルカ、其ノ將來ノ發行豫想額如何、我が國ノ公債消化力ノ見透シ如何ト云フ質問ニ對シマシテ、政府當局ハ、所謂赤字公債ノ既ニ發行シタ額ハ十九億四千三百餘萬圓デアリ、昭和十一年度ニ於テハ、更ニ五億一千二百九十餘萬圓ヲ發行スル豫定アルガ、今後假令増稅ヲ行フトシテモ、直チニ所謂赤字公債ノ發行額ノ減額ヲ期待スルコトハ困難デアル、我が國ノ公債發行額ガ一年十億圓程度デアルナラバ、其ノ消化ハ出來ルト思フガ、若シ其ノ消化ノ爲メ、必要ヲ生ズルニ至レバ、行政上ノ手段ヲ執リ、尙必要ガアルナラバ、更ニ立法上ノ手段ヲモ執ル考デアルト云フ答辯ガアリマシタ、又滿洲事件ノ行賞ハ何時迄續クノデアルカ、之ガ爲ニ今後何程ノ公債ヲ要スル見込デアルカト云フ質問ニ對シマシテハ、今回ノ改正ハ昭和九年度ト昭和十年度分ヲ見込シタモノデアツテ、昭和十年度迄ノ分ハ是デ足リル積リデアルガ、其ノ後ノコトハ今後ノ事態ノ推移如何ニ依ルコトデアツテ、今言明スルコトハ出來スト云フ御答辯デゴザイマシタ、尙其ノ外特別會計ヨリ一般會計ヘノ繰替使用及繰入ノ意義、其ノ財源、其ノ返済ノ時期並ニ整理方法、對支文化事業ノ新規計畫ノ内容、各國ノ團匪賠償金ノ使用方法等ニ關シ、重要ナル質問應答ヲ重ネマシタ結果、委員會ハ各法案ヲ何レモ全會一致ヲ以テ可決セラレマシタ、以上御報告申上ゲマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二十一、對支文化事業特別會計法中改正法律案ニ對シテ、贊成意見ヲ發言ノ通告ガゴザイマス、

此ノ際之ヲ許シマス、樺山伯爵

〔伯爵樺山愛輔君演壇ニ登ル〕

○伯爵樺山愛輔君 時間甚ダ切迫ノ場合ニ誠ニ恐縮デアリマスガ、此文化事業ニ關スル案ニ付キマシテ、少シ私ノ所見ノアル所ヲ聽イテ載キタイト存ジマス、我が國ハ特色アル文化ノ遺産ヲ保有シ來タノデアリマスガ、近年諸外國ノ異リタル文化ト接觸ヲ來シマシタ所、御承知ノ通り我が國ノ國民及文化ノ性質ガ、謙讓デアリ、包容的デアリマシタ爲ニ、外國ノ攻勢的ナ、且排他的ナ國民性ニ基ク文化ノ侵略ニ當面シマシテ、相當思想上ニモ、制度上ニモ、混亂ヲ來シ、且惡影響ヲ蒙リタノデアリマス、勿論外國文化ノ中ニ我々ハ多大ノ教訓ヲ見出し、之ヲ我國ノ文明ノ進歩ニ利用シ得タルコトハ申ス迄モアリマセスガ、同時ニ是ト共ニ極端ナル個人主義ヤ、共產主義ノ思想、人間ノ精神生活ノ方面ヲ輕視スル傾キ等、幾多ノ弊害ヲ輸入致シタノデアリマス、過去八十年ノ日本ハ、彼ノ外觀絢爛タル外國文明ニ眩惑サレ、壓倒サレ、一意之ニ及バザラムコトヲ虞レ、政府、國民共ニ絶大ナル努力ト犠牲ヲ拂ツテ參リマシタ結果、兎モ角モ表面的ニハ外國文化ヲ吸收シ、步調モ之ニ追付イタコトハ、諸外國民ノ齊シク驚異ノ眼ヲ以テ看取シタ所デアリマス、而モ其ノ本元ノ國ニ於キマシテハ、文明ガ既ニ爛熟ノ域ニ達シ、其ノ弊害モ忍ブベカラザルモノガアリマシテ、何等カソコニ新シキ方向ヲ展開スルニ非ザレバ、自己ノ文明ノ衰頹近キニアリト考ヘ、其ノ匡救策ヲ東洋ノ思想及精神ニ求メヤウトスル考方モ漸次現ル、ニ至リマシタコトハ、誠ニ注目スベキ現象ト考ヘマス、斯クノ如ク西洋デハ其ノ文明

ニ行詰リヲ來シテ、新シキ暗示ヲ東洋ニ求メムトスル傾向ガアリ、他方我が國ハ又西洋文明ニ追付キ、從ツテ自己ヲ顧ミル餘裕ヲ生ジマシテ、ソコニ彼トノ比較ニ於テ、今更ナガラ我が國文化ノ意義乃至役割ヲ自覺發見スルニ至ツタノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ヒマスレバ、我が國ノ文明ガ今日マデ外國ニ影響ヲ與ヘルコトガ少カッタノハ、我が國民ガ藝術的デアリ、直觀的デアル爲ニ、自己ノ文化ニ付テ客觀的ノ認識ヲ有シテ居ナカッタコト、ソレカラ謙讓ノ國民性ナルガ爲ニ、文化宣揚ニ對スル態度ガ控ヘ目勝チデアッタコトナドヲ、理由トシテ擧ゲナケレバナラヌト思ヒマス、抑、東西兩文明ハ相補ヒ、相扶クル運命ニアリマスルガ、日本ノ文明ハ立派ナ精華ヲ持チナガラ、其ノ國際的役割ヲ今日マデ十分ニ演ジテ居ナカッタノデアリマス、日本人自ラハ銘々其ノ恩澤ニ浴シテ居ナガラ、社會、國際的ニ其ノ效用ヲ發揮セシメナカッタノデアリマス、是ハ我々日本人ガ兎角自己表現ト利用發揮トニ無頓著デアルコトニ起因シテ居ルト考ヘマスガ、社會及世界ニ對スル我々ノ役割ヲ怠ツテ居リマシタコトハ、何ト言フテモ遺憾ト申サナケレバナリマセス、若シ自己ノ文明ヲ他カラ指摘サレルマデモナク自カラ認識シ、之ヲ社會、國際的ニ活用シテ居リマシタナラバ、共產主義ノ如キ思想上ノ侵略モ、機械文明ニ伴フ弊害モ防止シ得タデアリマセウシ、又廣ク世界ニ對シ、其ノ文明ノ行詰リヲ打開スルニ貢獻ヲ爲シタデアリマセウ、特ニ今日内外ヨリ日本ノ地位ヲ觀察致シマスルニ、皇國ハ世界ノ一大指導國家トシテ立ッテ居リ、人類全般ノ福祉ノ上ニ、日本ノ任務亦重大ナルモノガアルヲ考

ヘラレマス、既ニ今日十何箇國ヨリ頻リニ留學生ガ送ラレ、又海外ニ於テ日本ノ文化ニ對スル尊敬ニハ熱烈ナルモノガ存在スルニ至リマシタ、夫レ實ニ日本人ガ有スル其ノ精神ト、其ノ精神ヲ具顯シタル日本文化ニ存在スル崇高ナルモノガ、世界ノ視聽ニ訴ヘツ、アルノデアリマシテ、吾人ハ此ノ秋ニ當リ、宜シク人類文化ノ指導者トシテ自覺シ、世界思想ノ混亂ニ對シ、一大光明ヲ點ズベキ責務ト名譽トヲ擔ヘルモノト信ズルノデアリマス、併シナガラ本邦文化ノ宣揚ハ言フベクシテナカ／＼行ハレ難イ所ガ多イノデアリマス、先ヅ第一ニ我々ハ自己ノ文化ニ付テハ自ラハ會得シテ居ナガラ、他ヲシテ認識セシムルコトガ不得手デアリマス、第二ニ日本文化ハ本質カラ見テ、實ハ味ヒ會得セラルベキモノデアツテ、科學的、客觀的ノ解説ガ困難デアリマス、日本文化ガ十分ニ其ノ意義ヲ有シナガラ廣ク其ノ役割ヲ演ズルニ至ラナカッタノハ、蓋シ右二ツノ原因ガ存在スルモノト考ヘネバナリマセス、斯ク考ヘ來リマスルト、此ノ業タルヤ決シテ容易デナイ、先ヅ内國ニ於テ日本文化ノ體系ヲ整理シ、組織セネバナラス、又日本文化ガ斯カル性質ヲ有スル關係上、西洋諸國ノ費シタルヨリモ數倍モノ努力ト費用トヲ費サネバナラスノデアリマス、此ノ意味ニ於テ政府當局ガ率先シテ本事業ノ重要性ヲ認メラレ、政府、民間協力シテ其ノ目的達成ニ進ミ得ル途ヲ開カレマシタコトハ、誠ニ御同感ノ至リデアリマス、我が國今日ノ國際的立場ヲ見マスルニ、決シテ坦々トシテ平原ヲ行クガ如キモノデアハアリマセス、政治ニ、外交ニ、經濟ニ、我が國ノ進路ニハ幾多ノ

障害ガ横ハッテ居リマス、是ハ躍進途上ニアル國家ノ當然遭遇スル必要ノ運命デアリマセウガ、併シナガラ少クトモ文化方面ニ於キマシテ、各國利害ヲ同ジクシ、相互ニ其ノ恩澤ニ浴スルノデアリマシテ、國際關係複雜ナル今日デアリマシテモ、文化宣揚ノミハ何ノ憚ル所ナク、寧ろ各國之ヲ頻リニ日本ニ求メツ、アル所デアリマス、西洋諸國ハ汲々トシテ、早クヨリ自國文化ノ海外進出ヲ圖リ、其ノ爲ニ年々莫大ノ經費ヲ費シテ居ルノデアリマシテ、「フランス」ハ昨年ノ八百五十萬圓ヨリ今年ハ千五百萬圓ノ倍額ニ、文化事業費ノ支出ニナツテ居リマス、ソレカラ米國ノ一財團ノミデ千三百萬圓、他ノ文化團體ノ支出額ハ私マダ分ッテ居リマセス、「イタリー」ハ九百萬圓ノ豫算ヲ取ツテ居リマス、「ドイツ」ハ八百七十萬圓ノ豫算ヲ以テ此ノ事業ニ從事シテ居ッタノガ、現今デハ最モ有力ナル大臣ヲ頂イテ、宣傳省ト云フ一省ヲ設立シテ、此ノ事業ニ從事シテ居リマス、「スペイン」ノ如キデサハ三百萬圓ヲ支出シテ居リマス、我が日本ハ支那ヲ除イテ全世界ニ向ッテ五十餘萬圓ヲ支出シテ居ルノミデアリマス、列國ハ日本ニ於キマシテモ、是等ノ國ノ言語ノ普及、病院學校ノ施設、文學、藝術ノ浸透ガ如何ニ根強ク且廣ク行渡ツテ居ルカヲ見ルモ、其ノ努力大ナルコトハ直チニ知リ得ルノデアリマス、惟フニ、文化ハ政治、外交、經濟ノ根柢ヲ爲スモノデアリマシテ、之ニ對スル理解ノ存スル所ニハ、必ズヤ國際政治、外交、經濟ニ於ケル圓滿ナル發展ヲ期待シ得ルト確信致スノデアリマス、最近ニ於ケル諸外國人ノ日本ニ付テノ知識慾ハ、單ナル興味本位カラ漸次研究的態度ニマデ進轉シ

テ居ルコトヲ認メネバナリマセス、諸外國ノ大學ニ於ケル日本學及日本語ノ講座ガ漸ヲ逐ウテ増加シツ、アルコトヤ、本邦ヲ見學ノ觀光團ニ、教授、學生ノ多クナッテ來タコトナドハ其ノ證據デアリマス、斯カル外部ノ要求ニ對シテ、日本側ニ十分ノ用意アリヤ否ヤト言ヘバ、私共ハ實際ノ場合ニ當面シテ、其ノ用意ノ貧弱ナルコト、今更ナガラ驚クノデアリマス、況ヤ我ヨリ積極的ニ日本文化ヲ宣揚スルコトニ於キマシテハ、之ヲ實行セムトシテモ其ノ人無キヲ悲シミ、其ノ費用ノ少キヲ嘆クノミデアリマス、

我ガ國際生活ノ生命ハ文化事業ノ振興ニアルト私ハ信ズル者デアリマス、政府ガ内外ニ於ケル此ノ要請ヲ十分ニ認識セラレテ、此ノ法案ヲ提出サレタコトハ御同慶ノ至リデアリマス、此ノ趣意ニ於テ本員ハ本案ノ採擇サレムコトヲ希望シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 他ニ御發言モナケレバ、五案ヲ一括シテ採決致シマス、五案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス、五案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會ヲ開キマス、五案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二十二、土地賃賃價格改訂法案、政府提案、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長佐佐木侯爵

土地賃賃價格改訂法案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月二十一日
委員長 侯爵佐佐木行忠

貴族院議長公爵近衛文麿殿
(侯爵佐佐木行忠君演壇ニ登ル)

○侯爵佐佐木行忠君 只今上程セラレマシタ土地賃賃價格改訂法案特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ノ内容ニ付キマシテハ一昨日デアリマシタカ、當局ヨリ御説明ガアリマシタ通りデアリマシタルカラ、之ヲ略シマス、次ニ質問應答ノ二三ヲ申述ベマス、第一ハ賃賃價格ノ算定ノ實際ノ手續ニ關シテノ質問デアリマシテ、之ニ對シテハ其ノ規定ヲ舉ゲテ説明セラレマシタ、次ハ大正十五年ノ法律ニモ亦今回ノ提案ニモ、土地ノ賃賃價格ハ各地目毎ニ土地ノ情況類似スル區域内ニ於ケル標準賃賃價格ニ依ッテ居ルガ、大正十五年法律施行ノ結果トシテ、各府縣々々、或ハ或地方ト或地方ト比較シテ、果シテソレガ公平ニ行ハレタデアラウカト云フ御質問ガアリマシテ、之ニ對シテハ寸分ノ不公平ガナイトハ申上ゲラレナイガ大體ハ良カッタ、斯様ナ御答辯デアリ且今回ノ改訂法ヲ施行スルニ付キマシテハ、十分ニ公平ニ致ス積リデア

ル、斯様ナ答辯デアッタデアリマス、次ハ東北ノ地租ノコトニ付テデアリマシテ、東北ノ地租ノ過重デアルコトハ是ハ顯著ナ事實デアルガ、大藏省ハ是迄賃賃價格ハ全國的ニ調ベルノデアッテ、東北ダケヲ特ニ區別シテ考慮スル意思ガナカッタヤウデアルガ、東北ノ小作料ノ高イト云フコトハ東北特殊ノ理由ガアルノデアッテ、ソレハ土地ガ最も大切ナ唯一ノ生産要素デアリ、又土地ニ對スル愛著ガ強い結果デアッテ、ソレヲ全國ニ樣ニ機械的ニ一般並ミニ考ヘラレテハ困ルノデアルガ、此ノ點ハドウ云フ風ニ考慮サレルカ、斯様ナ質問デアッタデアリマス、ソレニ對シマシテ當局ヨリハ、東北ダケノ地租ヲ輕クスルト云フコトニ付テハ賛成ハ

出來ナイ、又小作料ヲ東北ダケニ限ッテ特別ニ扱フコトモ出來ナイノデアリマスガ、御承知ノヤウニ東北ハ此ノ長イ間雪ニ埋レテ、或ハ冷害、凶作等ガ頻發スルノデアッテ、契約小作料ガ必ズシモ實際ニ於テハ全部收得ガ出來ナイノデアアル、此ノ關係ハ十分斟酌シテ行ク積リデアアル、尙又東北ノコトニ付テハ此ノ地租ノミナラズ、今回提案シタヤウニ東北振興會社ト云フヤウナモノモアッテ、斯ウ云フモノデ以テ東北ノ問題ハ解決シテ行キタイ、斯様ナ御答辯デアッタデアリマス、尙米價ト賃賃價格トノ關係、或ハ將來地租ノ増減ニ付キマシテ御質問ガアリマシタガ、米價ノ關係ニ於キマシテハ或ハ全體ハ減少スルカモ知レズ、併シ又一面ニハ都市ガ發達シテ來ルノデ、其ノ結果宅地地租ト云フモノハ増加スルノデアラウ、斯様ナ答辯デアッタデアリマス、又賃賃價格改訂ノ結果、其ノ土地ニ對スル地租ガ四倍ヲ超エルモノニ付テハ、三箇年間其ノ超過額ヲ免除スルコトガ今回ノ規定ニアルガ、之ニ付テノ政府ノ意見ヲ問ハレタデアリマス

ルガ、政府ハ負擔ノ均衡ヲ得ルト云フコトハ是ハ望マシイガ、負擔ガ一時ニ激増スルト云フコトハ、經濟上ニモ惡影響ガアルノデアルカラ、稅法ヲ行フ上ニ於テハソレハ穩當デナイト思ッタンデ、此ノ規定ヲ設ケルコトニシタデアアル、斯様ナ答デアッタデアリマス、其ノ他尙質問應答ガゴザイマシタガ、是ハ此ノ際略シテ置キマス、討議ニ入リマシテ何等ノ發言ナク、何等ノ異議ナク本案ヲ可決致シマシタ、此ノ段御報告申シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御發言ガナケレバ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開ク

コトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 直チニ本案ノ第

二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會、本案

全部ヲ問題ニ供シマス、全部委員長ノ報告

通リデ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 直チニ本案ノ第

三讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會、本案

全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイ

マセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二十三、

土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理ノ

特例ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送

付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長西

郷侯爵

土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整

理法ノ特例ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及

報告候也

昭和十一年五月二十一日

委員長 侯爵西郷 從德

貴族院議長公爵近衛文麿殿

〔侯爵西郷從德君演壇ニ登リ〕

○侯爵西郷從德君 土地賃賃價格改訂法施

行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律案

ニ關スル委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致

シマス、委員會ハ昨二十一日ニ正副委員長

ノ選舉ヲ行ヒマシテ、引續キ委員會ヲ開催

致シマシタ、先ヅ政府委員ノ説明ヲ請ヒマ

シタ所、本法案ハ土地賃賃價格改訂法案、

只今佐佐木侯爵カラ御説明ニナリマシタ法

案ト關聯シタモノデアリマス、即チ耕地整

理執行地ノ賃賃價格及地租ニ關シマシテ

ハ、耕地整理法中ニ特別ノ規定ガアリマス

ガ、今回土地賃賃價格改訂法ニ依ッテ賃賃

價格ガ一般ニ改訂セラル、コトニナリマス

爲ニ、之ニ伴ッテ耕地整理執行地ノ賃賃價格

及地租ニ付テ特例ヲ設クルモノデアリマシ

テ、其ノ大要ヲ申上ゲマス、第一ハ昭和

十一年四月一日カラ昭和十二年十二月三十

一日迄ノ間ニ賃賃價格配賦ヲ致シマシテ、

整理執行地ノ賃賃價格ノ改訂方法ヲ定メル

コトデアリマス、第二ハ土地賃賃價格改訂

法第四條ノ規定、即チ地租負擔増減和ニ

關スル規定ヲ整理執行地ニ適用致シマス爲

ニ、特別ノ規定ヲ設クルコトデアリマス、

第三ハ耕地整理法中ニハ同意、表決等ノ要

件ト致シマシテ賃賃價格ノ計算ヲ必要トス

ルモノガアリマスガ、賃賃價格改訂後直チ

ニ賃賃價格ニ依ラシムルコトガ、事實上

困難デアリマスノデ、當分ノ間改訂賃賃價

格ニ依ル必要ノナイコトニ致スコトデゴザ

イマス、又他ノ政府委員ヨリ本法案ニ關聯

ヲ致シマス根本法案タル土地賃賃價格改訂

法ノ説明モ與ヘラレマシタ、引續イテ質疑

ニ移リマシテ、第一ニ急激ナル納稅上ノ變

化ノ有無ニ付テ、又第二ニ、細民殊ニ細農ノ

負擔過重ニナラナイカ、第三ニ、自作農獎勵

ト衝突矛盾スルコトハナイカ、第四ニ、將

來ノ耕地整理事業ニ差支ナイカ等ノ質疑應

答ヲ重ネマシタガ、本法案ハ佐佐木侯爵ノ

委員會ヲ經タ根本法ニ附屬關聯スル法案デ

アリマス故ヲ以テ、格別ナル討論ヲ致スコ

トナク、委員會全會一致、可決ヲ致シマシ

タ、右御報告ヲ終リマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀會

ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動

議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ヲ開キ

マス、全部ヲ議題ニ供シマス、本案全部、

委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀

會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動

議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會ヲ開キ

マス、本案全部、第二讀會ノ決議通りデ御

異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス、休憩ヲ致シマス、午後三時ヨリ開

會致シマス

午前十一時五十二分休憩

午後三時十九分開議

○副議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセ

マス

〔角倉書記官朗讀〕

本日本院ニ於テ承諾スルコトヲ議決シタル

左ノ政府提出案ハ直ニ之ヲ奏上シ又承諾ス

ルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和十一年勅令第七號(承諾ヲ求ムル件)

本日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案

ハ直ニ裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ

通知セリ

職業紹介法中改正法律案

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

對支文化事業特別會計法中改正法律案

土地賃賃價格改訂法案

土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律案

本日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ
朝鮮事業公債法中改正法律案

○副議長(伯爵松平賴壽君) 休憩前ニ引續キマシテ會議ヲ開キマス、只今報告ノ通り衆議院ヨリ送付サレマシタ政府提出ニ係ル、朝鮮事業公債法中改正法律案ヲ、此ノ際議事日程ニ追加致シテ、第一讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、中島政務次官

朝鮮事業公債法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月二十二日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「六億千五百八十萬圓」ヲ「六億九千六百二十萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員中島彌團次君演壇ニ登ル〕

○政府委員(中島彌團次君) 只今議題トナリマシタ朝鮮事業公債法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ御説明致シマス、朝鮮總督府特別會計ニ於テ、昭和十一年度以降ノ繼續費ト致シマシテ計上シマシタ鐵道建設及改良費ノ追加額ノ一部八千六百餘萬圓並ニ港灣修築改良費追加額ノ一部六百餘萬圓ハ、同特別會計歳計ノ現狀ニ顧ミマシテ、之ガ財源ハ公債ニ依ルヲ適當ト認メマシタノデ、朝鮮事業公債法ノ法定額ヲ増加スルノ必要ガアリマシテ、本法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望スル次第デアリマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑モゴザイマセスケレバ、本案ハ大正十三年法律第二十四號中改正法律案外八件特別委員ニ付託ヲ致シマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二十四、大正九年法律第五十六號中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

大正九年法律第五十六號中改正法律案
右本院提出案及送付候也

昭和十一年五月二十一日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

大正九年法律第五十六號中左ノ通改正ス
同法ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ五年ヲ限リ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得但シ延長期間ニ對スル補助金ノ歩合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ經過シタルモノニ付テハ營業開始ノ日ヨリ二十年ニ達スル迄本法施行ノ日ヲ含ム營業年度分ヨリ之ヲ適用ス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガナケレバ、本案ハ之ヲ大正十三年法律第二十四號中改正法律案外九件ノ特別委員ニ付託ヲ致シマス、日程ハ全部之ヲ以テ終了致シマシタ、明日ハ開會致シマスルガ、時間及議事日程ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ之ヲ以テ散會致シマス
午後三時二十三分散會

官報號外

昭和十一年五月二十三日

貴族院議事速記録第十二號